

文部科学省特別選定

組回覧

みんなの学校

©関西テレビ放送

不登校も特別支援学級もない、同じ教室で一緒に学ぶ
普通の公立小学校の みんなが笑顔になる挑戦



すべてのこどもに居場所がある学校を作りたい。

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる発達障害がある子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

学校が変われば、地域が変わる。
そして、社会が変わっていく。

このとくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテランの先生たちが見守る。子供たちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子供たちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を培っています。

そもそも学びとは何でしょう？ そして、あるべき公教育の姿とは？ 大空小学校には、そのヒントが溢れています。みなさんも、映画館で「学校参観」してみませんか？



平成25年度(第68回)文化庁芸術祭大賞 受賞理由

他の地域では厄介者扱いされている転校生が、教師と同級生、そして地域が包み込むことで、素直で心優しい子どもに成長していく姿は、見ている者の心を熱くする。大空小学校の試みは、上からの教育改革とは一線を画す、現場からの教育改革である。

校長先生が言う「今の時代に欠けているもの」がこの映画には詰まっている。子どもたち、地域、そして私たちの社会には、実はより良くしていくために必要なものがすべてそろっている。必要なことは、それを開花させること、開花する条件を整えること、開花を妨げないことだ。どうすればいいか。その答えが、この映画の中にある。

湯浅誠(社会活動家/法政大学教授)

子どもたちひとりひとりが能力に応じて大切にされていること、手がかかる子もかからない子もいるけど平等に愛されていること、そういう学校が地域の中で理解されて存在していること、それらのことにも感動しました。

細川貂々(漫画家・イラストレーター)

皆が一人ひとりの存在を認めあって作る雰囲気はまさに「みんなの学校」だと思います。

50代・女性(スクールソーシャルワーカー)

大空は 明日へつづく・・・ minna-movie.com

無料ご招待(申込み不要・当日受付・定員各回100名先着順)

「みんなの学校」【2014年・日本映画・106分】日吉中学校PTA自主上映会

日時: 11/28(土) 9:30~、12:00~、14:30~ (受付は各20分前から、各回入替制)

場所: 坂本市民センター2F 大会議室(京阪電車坂本駅下車徒歩1分)

駐車場には限りがあります。できるだけ公共交通機関等をご利用ください。